

2025年度（令和7年度）

第1回 福山市多文化共生地域連携協議会

2025年（令和7年）6月30日 10:00～11:30

まなびの館ローズコム 大会議室

1 福山市多文化共生地域連携協議会について

福山市多文化共生地域連携協議会

- ・ 福山市多文化共生推進プランの進捗管理
- ・ 日本語学習環境の在り方検討
- ・ 各部会の集約

○設立趣旨

- ・ 福山市多文化共生推進プラン（5年間計画）に基づき多文化共生施策を連携して推進するため、関係者や専門家などで組織する
- ・ 多文化共生施策の進捗管理を行い、関係者から現状や課題等を聴取し、共有するとともに必要な施策の検討を行う
- ・ 育成就労制度の開始を見据え、外国人材が定着し活躍できるまちとなるよう各施策の検討を行う

地域部会

○内容

- ・ 地域日本語教室の充実
- ・ 日本語学習支援に携わる人材の育成
- ・ 地域住民の理解促進
- ・ 地域活動への参加促進
- ・ 生活相談体制の充実
- ・ 外国人コミュニティの形成

雇用部会（福山市外国人材活躍推進協議会）

○内容

- ・ 日本語能力の向上
- ・ 就労支援
- ・ 就労・生活のための制度、雇用ルールの啓発
- ・ 相談窓口の周知・連携

教育部会（福山市外国人児童生徒等指導体制の推進に係る協議会）

○内容

- ・ 初期指導教室の開設
- ・ 初期指導教室修了者へのフォローアップ
- ・ 学校受け入れ時の面談、個別の支援計画作成の補助
- ・ 日本語担当教員への巡回指導・研修の実施

2 福山市多文化共生推進プランとびんご圏域多文化共生推進ビジョンについて

計画期間：2025年度（令和7年度）～2029年度（令和11年度）

備後圏域7市2町でも共通の方向性を持って連携するため、「びんご圏域多文化共生推進ビジョン」を策定

基本理念

互いを認め合い
多様性を活力に
みんなで創る
多文化共生のまち

基本方針

1 コミュニケーションを通じて つながり合うまちづくり

2 誰もが安心安全に暮らし 続けることができるまちづくり

3 誰もが活躍できるまちづくり

施策

- 1 日本語学習機会の充実 **重点**
- 2 外国人住民に伝わるコミュニケーション手段の普及
- 3 相互理解の促進と多文化共生の機運醸成

- 1 行政情報等の多言語化の推進
- 2 生活相談体制の充実 **重点**
- 3 オリエンテーションとアウトリーチによる支援 **重点**
- 4 こどもの教育機会の確保
- 5 子育て・保健・福祉・医療に関する支援
- 6 防災、交通安全・防犯の推進
- 7 住まいの確保と就労環境の整備

- 1 外国人材の受入れ支援
- 2 定着促進とキャリア形成支援 **重点**
- 3 地域社会への参画と協働
- 4 海外都市等との国際交流

●目標と具体的な取組内容

基本方針 1 コミュニケーションを通じてつながり合うまちづくり

外国人住民と地域住民が共に生活していくため、円滑なコミュニケーションを促進するとともに、交流を深めることで、お互いを理解し尊重し合えるまちづくりを推進します。

1-1 日本語学習機会の充実

重点

- ・ 地域日本語教室の充実
- ・ 日本語学習支援に携わる人材の育成
- ・ 地域や職場で実施する日本語学習への支援

1-2 外国人住民に伝わるコミュニケーション手段の普及

- ・ 「やさしい日本語」の普及
- ・ 翻訳アプリ等のICTの活用の推進
- ・ 地域住民を対象とした外国語学習機会の提供

1-3 相互理解の促進と多文化共生の機運醸成

- ・ 相互理解のための交流や意識啓発
- ・ 外国人差別の解消に向けた取組
- ・ 多文化共生に取り組む団体等の活動共有

●目標指数（K P I）

指標	現状 (2024年度)	目標値 (2029年度)
日本語で会話ができると回答した外国人の割合	22.8%	40.0%
外国人が増える事について良い影響があると回答した日本人の割合	43.4% (2021年度)	55.0%



地域日本語教室の一例（日本語サロン）



地域日本語教室のご案内
(市ホームページ)

基本方針 2 誰もが安心安全に暮らし続けることができるまちづくり

外国人住民が、様々なライフステージとその移行期で困ることがないように、相談・支援体制を充実し、日本人と同様のサービスが受けられる環境をめざします。

2-1 行政情報等の多言語化の推進

- ・ 多言語による情報発信
- ・ 多言語化に関するガイドラインや用語集の作成
- ・ 窓口等での多言語対応の推進
- ・ 文書のデジタル化をはじめとしたDXの推進

2-2 生活相談体制の充実

重点

- ・ 外国人相談窓口の充実
- ・ 身近な交流館等での相談対応

2-3 オリエンテーションとアウトリーチ※による支援

重点

- ・ ライフステージの継ぎ目における体系的・計画的な支援
- ・ 生活ルールなどについての理解促進
- ・ 企業・団体や外国人コミュニティと連携したニーズの把握

※必要な人に必要なサービスや情報が届くよう、積極的に支援すること

●目標指数（KPI）

指標	現状 (2024年度)	目標値 (2029年度)
市役所などの外国人相談窓口があることを知っている外国人の割合	53.7%	75.0%
生活で困ったことがないと回答した外国人の割合	41.9%	60.0%



外国人相談窓口（本庁）



外国人相談窓口
(市ホームページ)

2-4 こどもの教育機会の確保

- ・ 外国にルーツをもつこどもが安心して学べる環境づくり
- ・ 学校へ編入学するこどもへの支援
- ・ 進路指導における情報提供やキャリア教育への対応
- ・ 学校における日本語指導体制の充実

2-5 子育て・保健・福祉・医療・介護等に関する支援

- ・ 子育て・保健・福祉サービスの提供
- ・ 医療分野における多言語対応
- ・ 高齢化する外国人住民への支援

2-6 防災、交通安全・防犯の推進

- ・ 災害時及び災害発生後の対応の充実
- ・ 防災啓発の推進
- ・ 交通安全や防犯活動に関する情報や学習機会の提供

2-7 住まいの確保と就労環境の整備

- ・ 外国人住民に対する居住支援
- ・ 働きやすい就労環境の整備



子育て支援通訳ボランティアの様子



総合防災訓練参加の様子①



総合防災訓練参加の様子②

基本方針 3 誰もが活躍できるまちづくり

地域の維持・活性化に向け、新たな外国人材の受入れや、外国人住民の備後圏域内での定着を支援するとともに、外国人住民との連携・協働を通じて、誰もが活躍できるまちづくりを推進します。

3-1 外国人材の受入れ支援

- 外国人雇用に係るセミナーの開催
- 外国人への配慮のある店舗やサービス等の周知

3-2 定着促進とキャリア形成支援

重点

- 外国人留学生等の職場体験や企業・団体との連携による定着支援
- 企業・団体で働く外国人住民等を対象とした日本語学習への支援
- 多文化共生分野の事業へのサポート

3-3 地域社会への参画と協働

- 外国人住民も参画する交流イベントの開催
- 地域活動への外国人住民の参加促進
- 外国人コミュニティとの連携や協働の推進

3-4 海外都市等との国際交流

- 親善友好都市等との交流の推進
- 国際交流事業への支援と活躍の場づくり

●目標指数（K P I）

指標	現状 (2024年度)	目標値 (2029年度)
福山市にずっと住み続けたいと思う外国人の割合	32.0%	50.0%
外国人留学生の市内就職者数	58人 (2022年度)	80人
国籍や言語の異なる人と日頃から付き合いがあると答えた日本人の割合 ※「親しく付き合っている（知人、友人、職場の同僚等）」、「あいさつ程度の付き合いがある（近所に住んでいる等）」の合計値	27.8% (2021年度)	40.0%



交流イベントでの様子

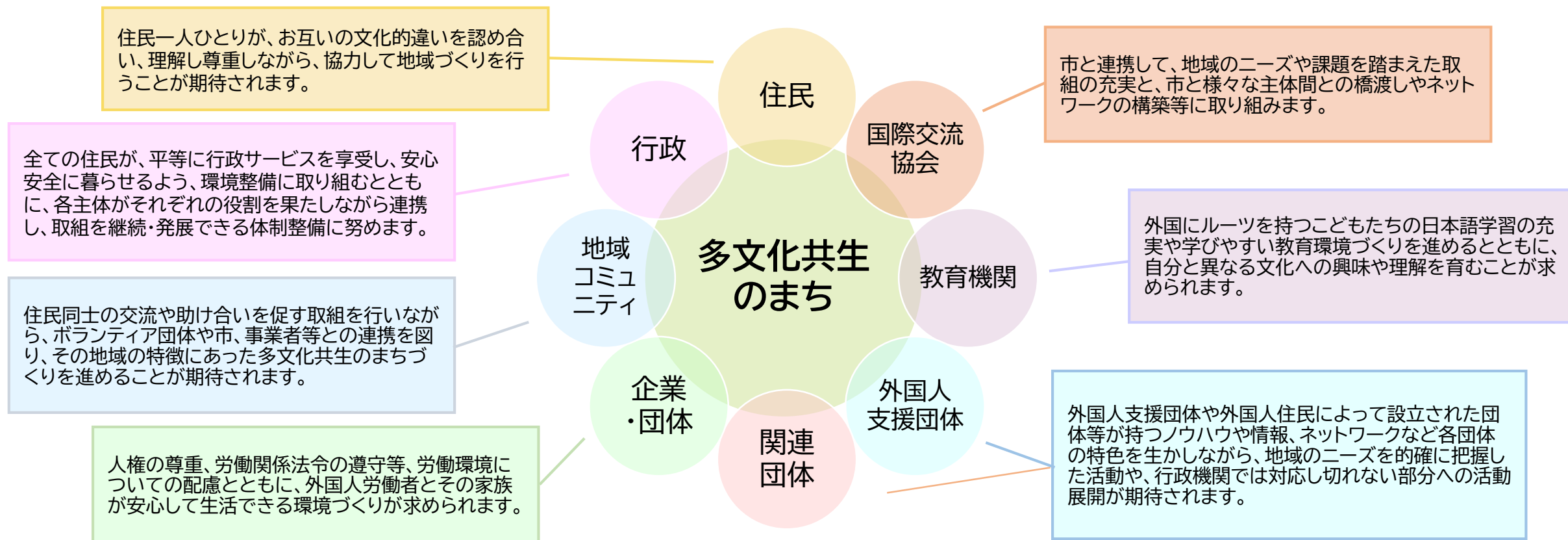


書道体験会での様子

福山市多文化共生推進プランに基づき、多文化共生施策を計画的かつ総合的に推進します。

なお、外国人住民に関する分野は、生活支援・生活相談、情報提供、教育、まちづくりなど多岐にわたるため、行政や住民、ボランティア等の関係団体や外国人支援団体、地域コミュニティ、大学等の教育機関、企業・団体等と連携し、施策を推進します。

また、広島県、備後圏域市町及び関係機関等と情報交換を行うなど、連携を図る中で、効率的かつ効果的な施策展開に努めます。



※主な取組内容を記載

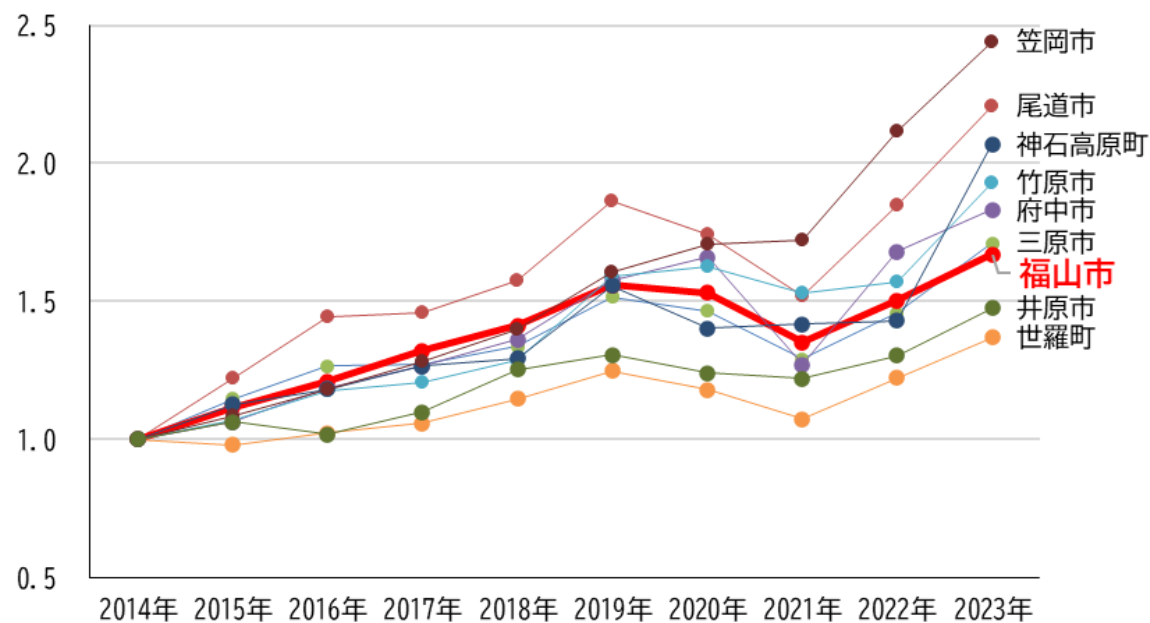
基本方針	施策体系	施策の方向性	協議会	部会		
				地域	雇用	教育
コミュニケーションを通じてつながり合うまちづくり	1. 日本語学習機会の充実 重点	外国人住民が、生活に必要な日本語能力を身に付け、地域社会において、コミュニケーションを図り、円滑な生活が送れるよう、日本語学習機会の充実を図ります。				
	2. 外国人住民に伝わるコミュニケーション手段の普及	外国人住民にも大切な情報が伝わり、円滑なコミュニケーションが図れるよう、「やさしい日本語」の普及に取り組みます。 また、翻訳アプリ等のＩＣＴを活用したコミュニケーションを推進します。				
	3. 相互理解の促進と多文化共生の機運醸成	全ての人の人権を尊重し、相互理解を深め、多文化共生のまちづくりに向けた機運の醸成を図ります。				
誰もが安心して暮らし続けることができるまちづくり	1. 行政情報等の多言語化の推進	外国人住民が必要な行政サービス等についての情報を受けられるよう、多言語での情報発信を推進します。				
	2. 生活相談体制の充実 重点	外国人住民が相談できる体制の充実と、その周知を図ります。				
	3. オリエンテーションとアウトリーチによる支援 重点	様々なライフステージとその移行期における体系的・計画的な支援を推進します。				
	4. こどもの教育機会の確保	外国にルーツを持つこどもの増加や多様化に対応し、全てのこどもが安心して学べる環境づくりを推進します。				
	5. 子育て・保健・福祉・医療に関する支援	外国人住民が安心して生活をするために必要な行政サービス（子育て・保健・福祉・医療・介護等の各分野）を受けられるよう、多言語化等への取組の充実を図ります。				
	6. 防災、交通安全・防犯の推進	外国人住民が、災害の備えを行うことができ、災害時に適切な避難行動ができるよう、支援します。 交通安全・防犯についての啓発を推進します。				
	7. 住まいの確保と就労環境の整備	適正な居住環境の確保と、就労環境の整備を推進します。				
誰もが活躍できるまちづくり	1. 外国人材の受入れ支援	外国人材を雇用している又は雇用を希望している企業や団体が、適正かつ円滑な外国人材の受入れができるよう、支援します。				
	2. 定着支援とキャリア形成支援 重点	職場体験などにより、留学生の備後圏域内の企業や団体への就職を促進します。キャリアアップができるよう、日本語の学習支援を産学官で連携して推進します。				
	3. 地域社会への参画と協働	地域の維持・活性化に向けて、外国人住民との連携・協働を推進します。				
	4. 海外都市等との国際交流	親善友好都市をはじめとする海外都市との交流を推進し、経済、文化、教育など様々な分野において市民レベルでの交流を推進します。				

3 外国人住民の現状について

備後圏域

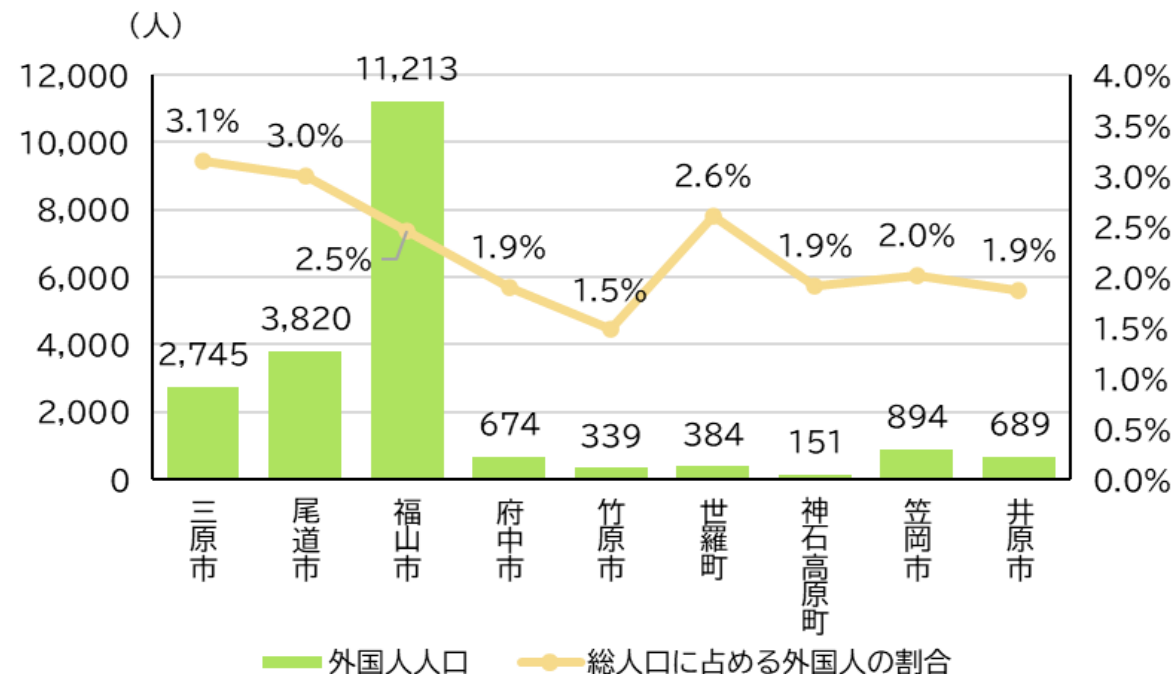
- ・いずれの市町においても増加傾向にある
- ・本市の外国人人口は11,213人（2024年5月末時点）、総人口に占める割合は2.5%である

●外国人の増加率



資料：法務省 在留外国人統計(各年12月末)より算出

●外国人人口と総人口に占める割合



資料：備後圏域各市町(2024年5月末)

福山市

- ・直近10年間で外国人住民は、ほぼ倍増している
- ・技能実習制度の拡大や留学生の増加により、ベトナムなどの東南アジア諸国出身者が増加している
- ・ネパール（留学生）、ミャンマー（技能実習生）はコロナ禍以降急増している

●外国人人口

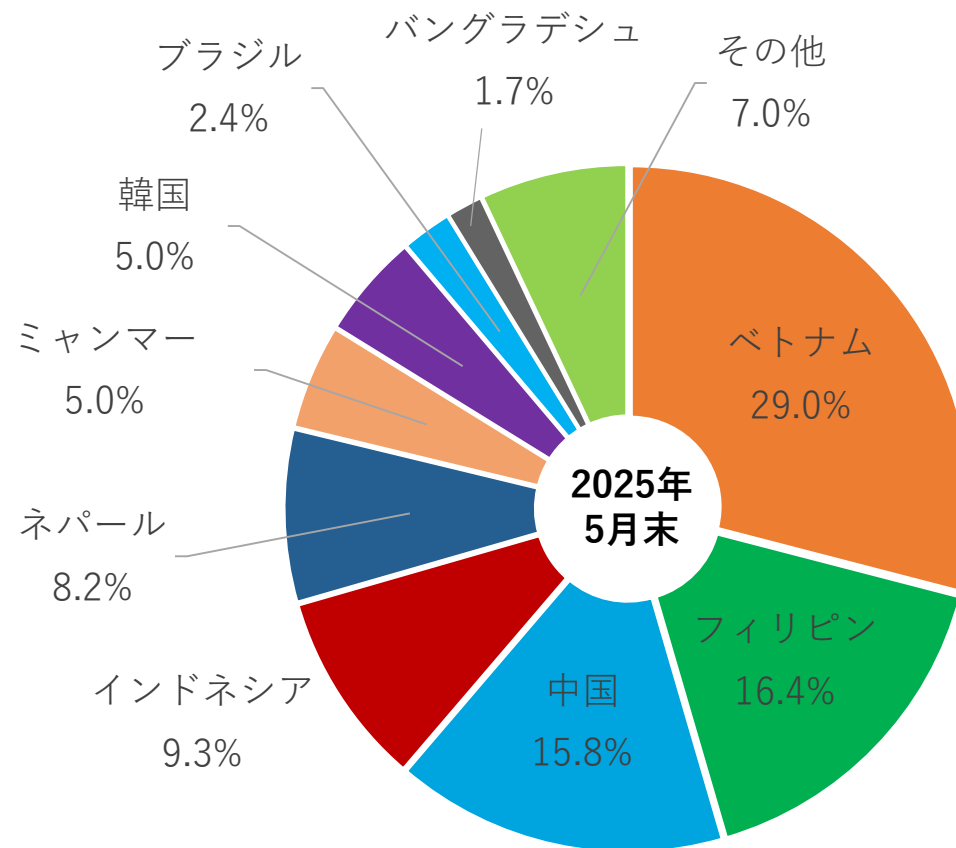
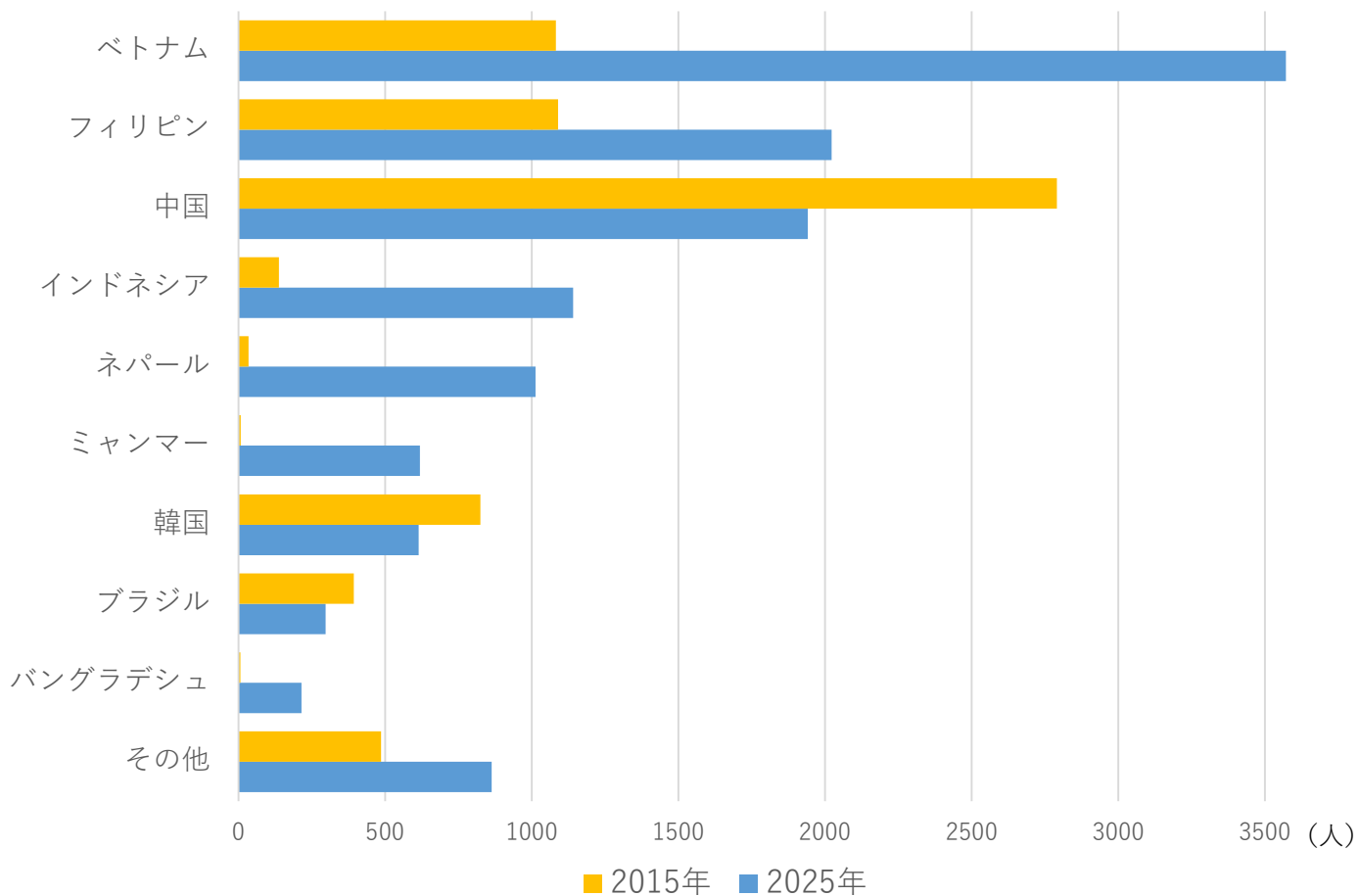
2015年5月末

6,858人
(53カ国)

2025年5月末

12,302人
(66カ国)

●国籍・地域別

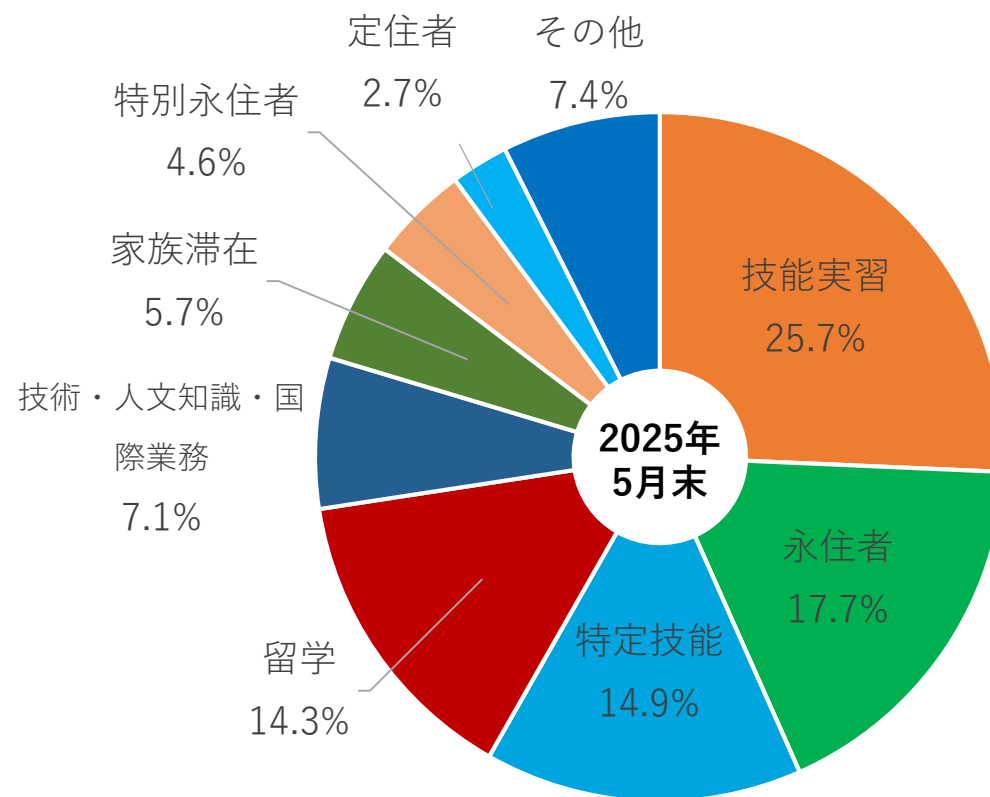
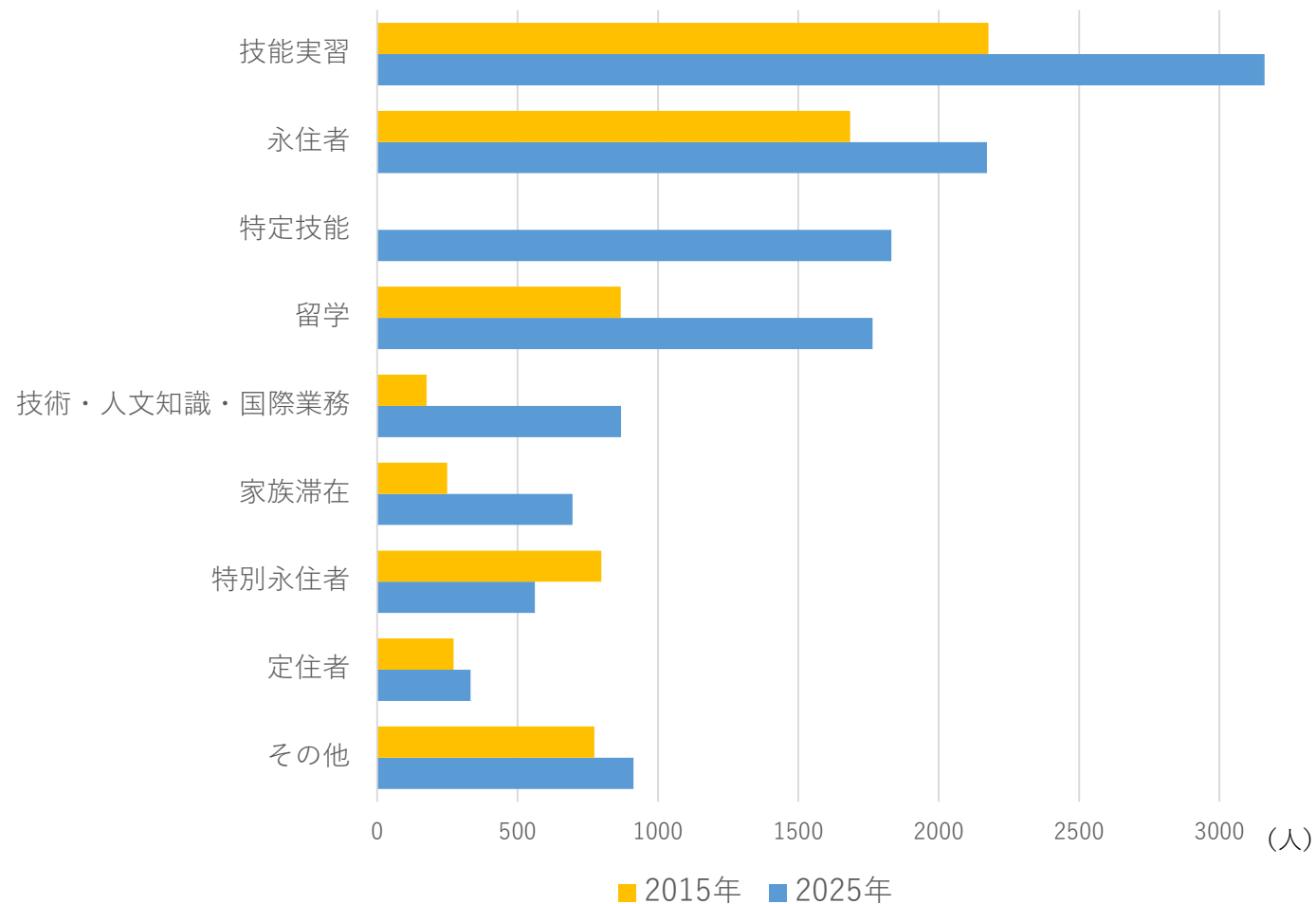


資料：福山市（各年5月末）

福山市

- ・ 2019年に創設された「特定技能」は15%を占めている
- ・ 「技能実習」と「特定技能」で約4割となっている
- ・ 「特別永住者」以外の在留資格は増加している

●在留資格別

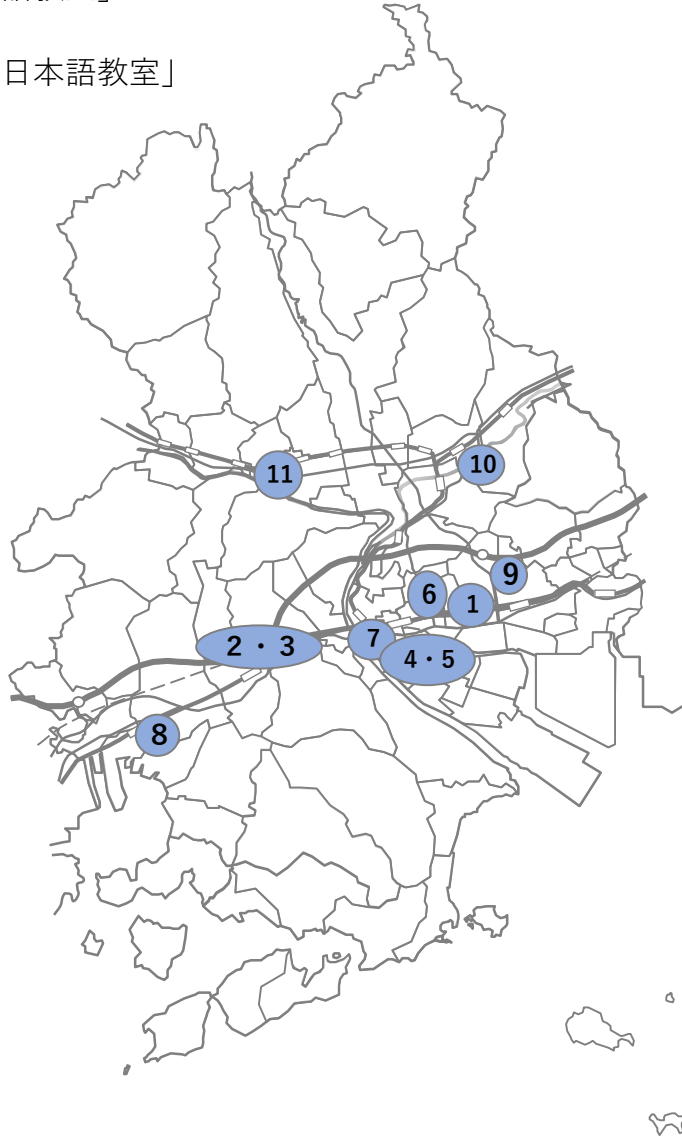


資料：福山市（各年5月末）

4 各部会に関する現状と課題について

●地域日本語教室

- ① 多文化共生事業「深津日本語教室」
- ② 日本語教室すまいりい
- ③ 中国帰国者援護事業「瀬戸日本語教室」
- ④ 日本語ワンペアレッスン
- ⑤ 日本語サロン
- ⑥ NGOふくやま日本語教室
「ともだちひろば」
- ⑦ インターナショナルチーム
日本語教室
- ⑧ まつなが日本語教室
- ⑨ 多文化教室なないろ
- ⑩ 御野日本語教室
- ⑪ ふ〜じゅ



ヒアリング結果（2024年8月～9月実施）

○外国人住民

- ・子育てなどにより、日本語教室の時間が合わず、参加できない。
- ・仕事の日本語はできるが、日常生活上の日本語ができない人もいる。配偶者や子どもも日本語が話せない。
- ・オンラインで勉強するよりも、対面で学習する方が、やる気が出て継続できる。

○日本語教室

- ・学習支援者の高齢化や人材不足。
- ・学習支援者の育成・スキルアップが必要。
- ・支援者同士の情報共有の場が必要。
- ・運営資金（事務費、教材等）の確保が課題。

○企業

- ・育成就労制度に向けたステップアップのための日本語教育への支援体制がない。
- ・「やさしい日本語」への理解不足。

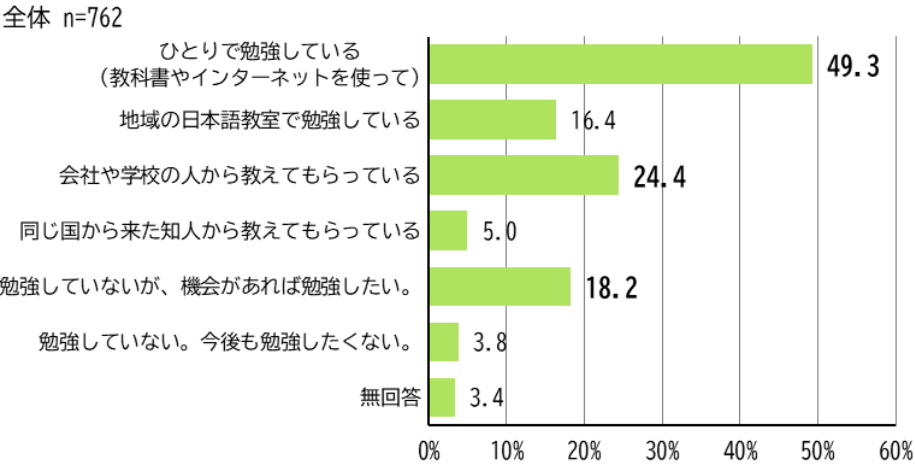
●市内地域日本語教室の開催状況

No.	事業名・教室名	主催	実施場所	実施日	開催内容	2024年度開催状況		エリア
						開催回数	延べ参加人数	
1	人権・社会教育活動事業 多文化共生事業 「深津日本語教室」	市	西深津交流館 深津コミュニティセンター	(小〔中〕学生・初級クラス) 毎週 木曜日 19:00～	中国帰国者を含む外国人市民その他対象 ・日本語の学習 ・日常会話の練習 ・生活上の相談 ・料理教室による交流 ・地域活動への参加による交流他	39	233	本庁
				(成人クラス) 毎週 木曜日 19:00～		39	69	
2	日本語教室「すまいりい」	市	瀬戸交流館 瀬戸コミュニティセンター	毎週 土曜日 10:00～12:00	外国人市民対象 ・日本語の学習 ・親睦イベント交流 他	48	289	
3	中国帰国者援護事業 「瀬戸日本語教室」	市	瀬戸交流館 瀬戸コミュニティセンター	毎週 火曜日 18:00～20:00	中国帰国者とその家族を対象 ・日本語の学習 ・母国語の勉強・生活上の相談 他	52	301	
4	日本語ワンペアレッスン	ふくやま国際交流協会	ペアで決めることができます	自分で決めることができます (1週間に 1時間まで)	外国人 (16歳以上, 中学生以外) 対象 ・ワンペアでの日本語学習 ・日常会話の練習 他	-	-	
5	日本語サロン	ふくやま国際交流協会	国際サロン (まなびの館ローズコム4階)	毎週 金曜日 (月3～4回) 15:30～17:00 ※春休み・夏休みあり	外国にルーツを持つ市民 (中学生以上/留学生・技能実習生も参加できます) ・会話・教科書・宿題・プリント・レクリエーション ・通訳 (中国語) がいます	31	214	
6	NGOふくやま日本語教室 「ともだちひろば」	NGOふくやま日本語教室	市民参画センター	毎週 土曜日 (月4回) 19:30～21:30	国籍や在留資格に関係なく誰でも参加できる ・日本語でのコミュニケーションを学習 ・コミュニケーショングループ活動 ・イベント行事もあり 他 ・参加費用 月1000円	40	261	
7	インターナショナルチーム 日本語教室	インターナショナルチーム	西交流館 本庄コミュニティセンター	毎月 第1・3土曜日 13:00～17:00	・日本語や日本の文化を学ぶ (子ども連れOK) ・子育ての相談や生活の相談ができる。 ・国際交流のイベントを開いたり参加したりする 他	23	115	
8	まつなが日本語教室	市	松永交流館 松永コミュニティセンター	毎週 土曜日 19:00～20:30	外国人市民対象 (誰でも参加できる) ・日本語の学習 ・生活上の相談 ・日本文化交流 ・日常会話の練習 他	40	1,438	松永
9	多文化教室 なないろ	市	緑丘交流館 春日コミュニティ館	毎週木曜日 (正月・盆休みあり) 10:00～11:30	国籍に関係なく誰でも参加できる ・基本的な読み書きや日常会話の練習 ・生活相談 他	43	444	東部
10	御野日本語教室	市	御野交流館	毎月 第2・4土曜日 10:00～11:20	外国人市民対象 ・日本語の学習 ・生活上の相談 ・日本文化の体験 他	21	98	神辺
11	ふ～じゅ	福山市中国帰国者をささえる会	駅家西交流館	毎週 土曜日 19:30～21:00	国籍や在留資格・生活背景を問わず誰でも参加できる ・日本語の学習 ・生活上の相談 ・文化交流 ・行政や関係機関との協力・連携による事業開催 他	49	652	北部

●外国人生活環境調査（福山市多文化共生推進プラン抜粋）

Q. 今、日本語を勉強していますか？（複数回答）

- 「ひとりで勉強している(教科書やインターネットを使って)」が49.3%で最も高く、「会社や学校の人から教えてもらっている」が24.4%、「勉強していないが、機会があれば勉強したい。」が18.2%となっている。

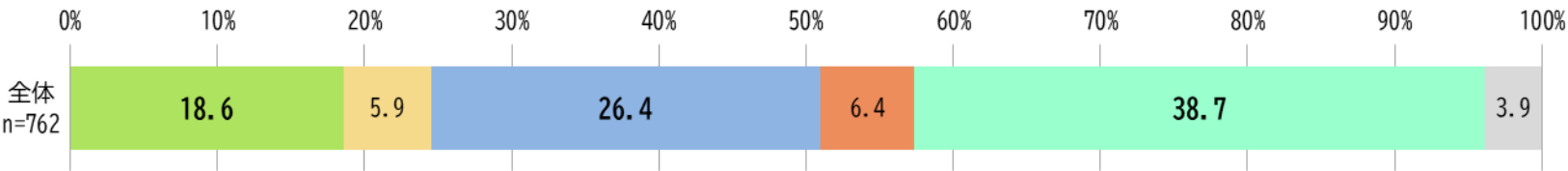


■日本語習熟度別

	習熟度【高】 n=164	習熟度【中】 n=232	習熟度【低】 n=359
ひとりで勉強している(教科書やインターネットを使って)	54.9	52.6	45.4
地域の日本語教室で勉強している	14.6	28.0	10.0
会社や学校の人から教えてもらっている	20.1	25.0	26.5
同じ国から来た知人から教えてもらっている	1.8	3.4	7.5
勉強していないが、機会があれば勉強したい。	12.2	9.1	27.3
勉強していない。今後も勉強したくない。	6.7	2.2	3.6
無回答	6.1	2.2	1.4

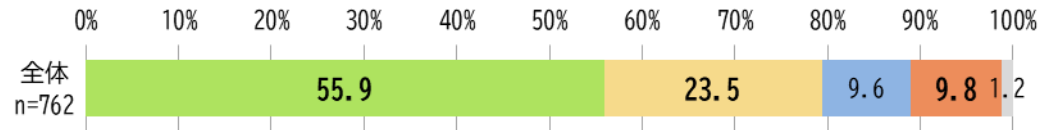
Q. 市役所や交流館などでしている日本語教室に参加したことがありますか？

- 「あることを知らない」が38.7%で最も高くなっています。次いで「あることは知らないが、あるなら参加したい」が26.4%、「参加したことがある」が18.6%で続いている。

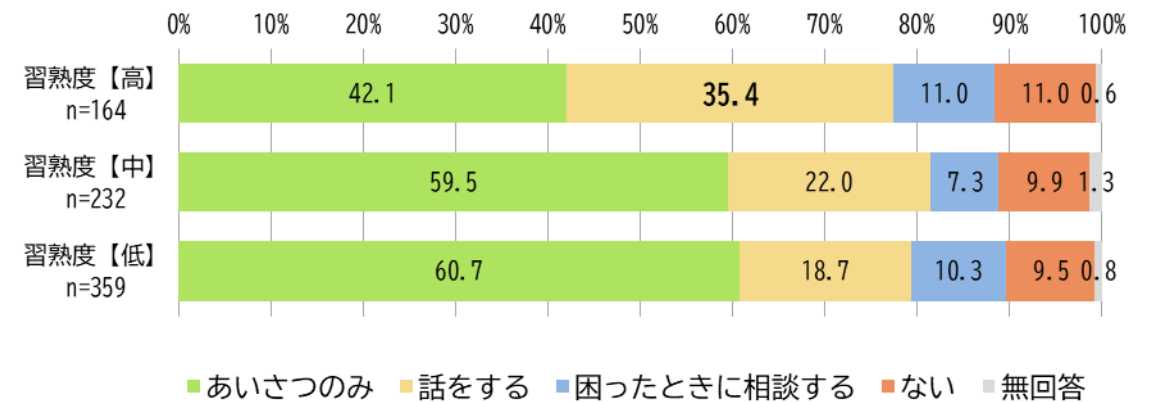


Q. 近所の日本人と話をすることがありますか？

- 「あいさつのみ」が55.9%で最も高く、「話をする」が23.5%、「ない」が9.8%となっている。
- 在留資格別では「永住者、永住者の配偶者」で「話をする」が45.0%で最も高くなっている。

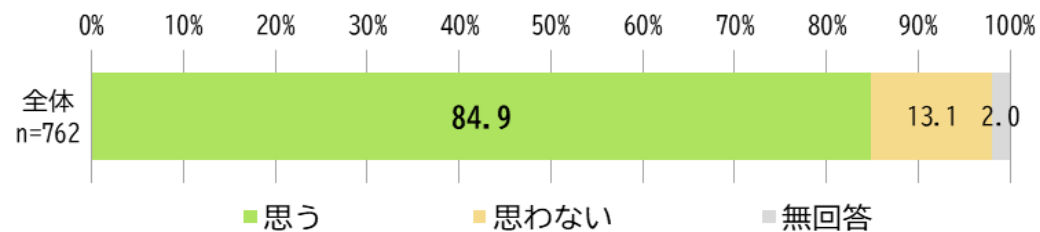


■日本語習熟度別

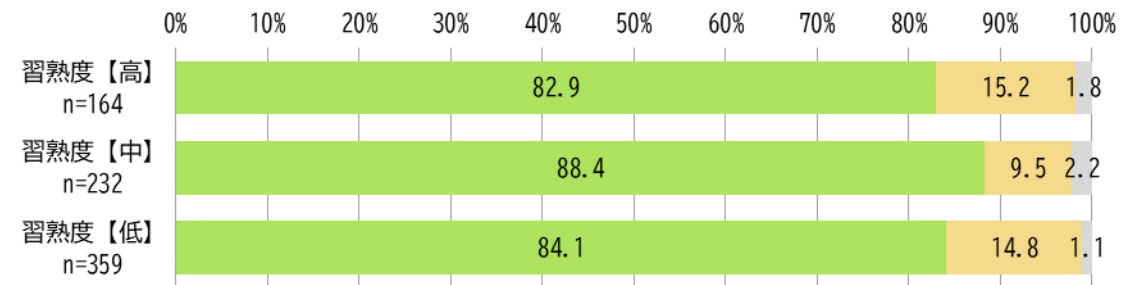


Q. 近所の日本人と仲良くなりたいと思いますか？

- 「思う」が84.9%を占めており、日本語の習熟度に関わらず、仲良くなりたいと思う割合が高くなっている。

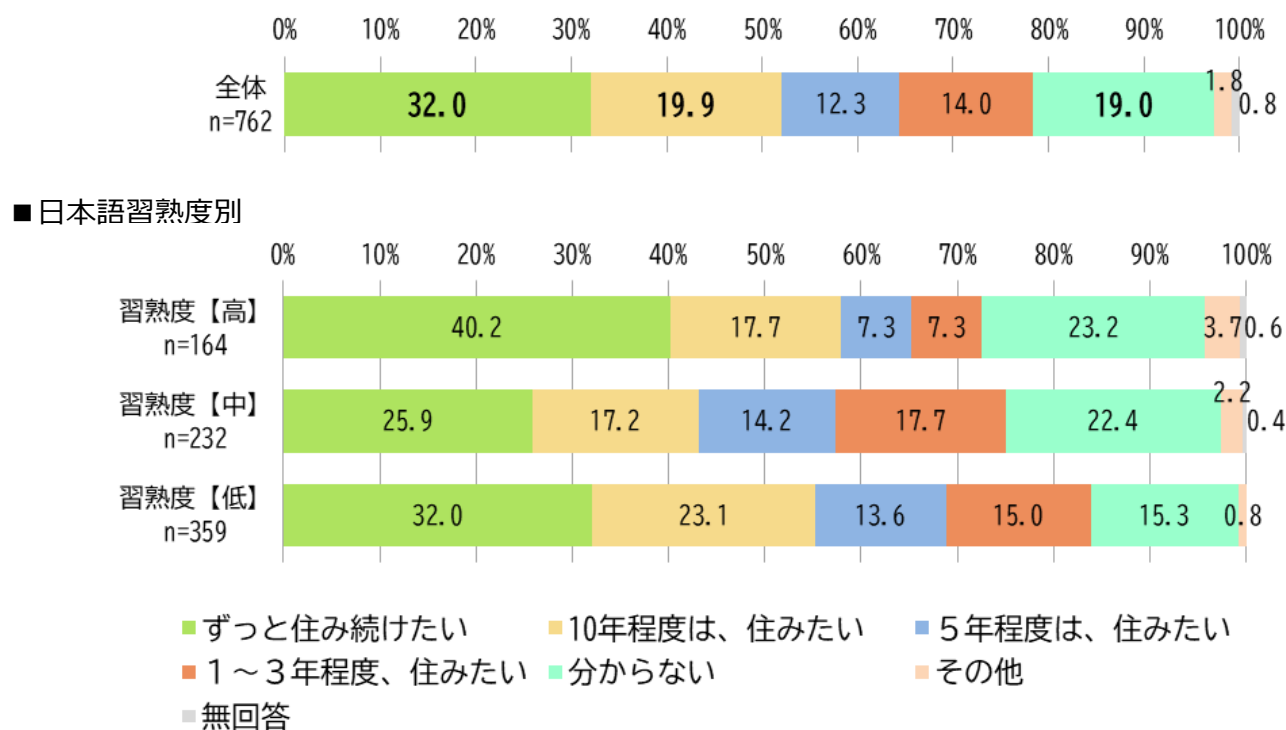


■日本語習熟度別



Q. 福山市に住み続けたいと思いますか？（複数回答）

- 「ずっと住み続けたい」が32.0%で最も高くなっている。次いで「10年程度は、住みたい」が19.9%、「分からない」が19.0%が続いている。
- 在留資格別でみると、「永住者、永住者の配偶者」で「ずっと住み続けたい」が68.8%と高く、「留学」や「定住者」で「分からない」の割合が、他の資格に比べ、高くなっている。
- 日本語習熟度別でみると、習熟度【中】で「ずっと住み続けたい」が低くなっている。



現状・課題

日本語学習機会の充実

- ・ 日本語を学ぶ目的が多様化している
- ・ 日本語を勉強したい外国人住民が多くいる
- ・ 地域日本語教室があることを知らない外国人住民が多くいる
- ・ 学習支援者の人材不足

相互理解の促進

- ・ 外国人住民が増えることについて、文化や言葉、生活習慣等の違いから不安を感じている地域住民がいる
- ・ 外国人住民にとって、日本の文化や生活習慣を理解しておらず近隣トラブルになることがある

多文化共生のまちづくり

- ・ 相談窓口があることを知らない外国人住民が多い
- ・ 地域住民と仲良くなりたい外国人住民や、自分と異なる文化等を学びたい地域住民が多い
- ・ 災害時の避難などどうすればよいかわからない外国人住民が多い

今後の方向性

- 
- ・ 地域日本語教室の充実
 - ・ 地域日本語教室に関する情報発信
 - ・ 日本語学習支援に携わる人材の育成

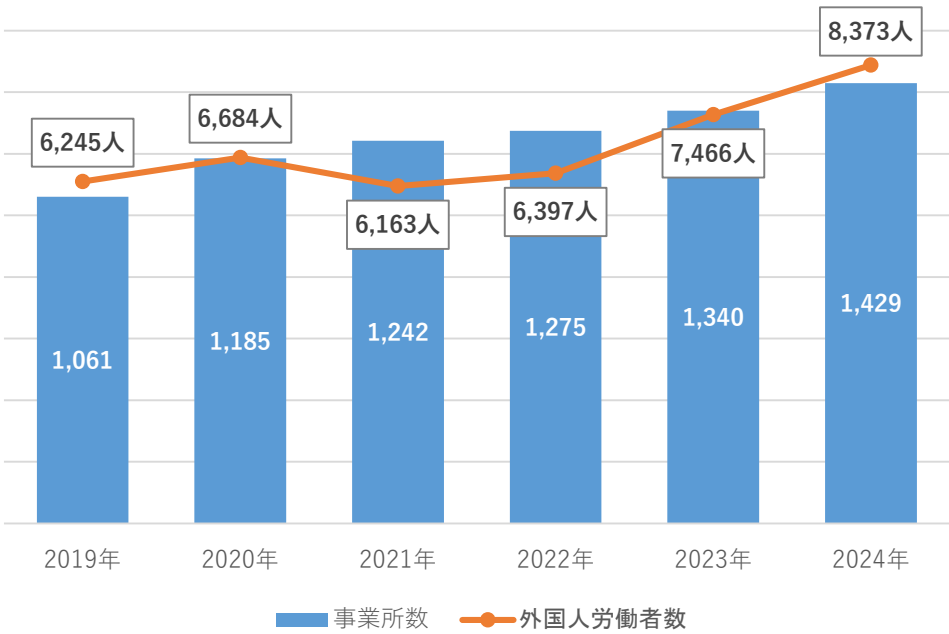
- 
- ・ 多文化共生理解講座等の実施
 - ・ 相互理解のための交流や意識啓発

- 
- ・ 生活相談体制の充実及び窓口の周知
 - ・ 外国人コミュニティの形成
 - ・ 地域活動への参加促進に向けた地域住民との連携

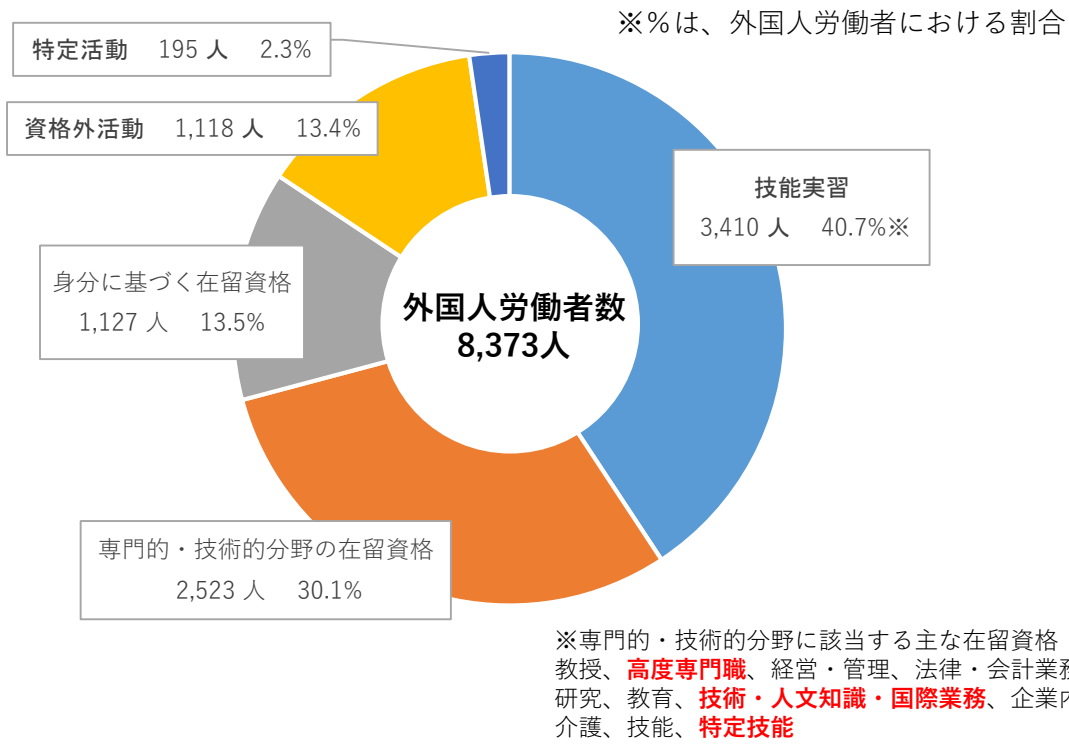
雇用部会（福山市外国人材活躍推進協議会）に関わる現状と課題について

- 福山公共職業安定所管内の外国人雇用事業所数は1,429事業所（前年比107%）、外国人労働者数は8,373人（前年比112%）。
- 新型コロナの影響で一時減少したものの、**外国人雇用事業所数、外国人労働者数共に増加傾向**にある。
- 在留資格別で最も多いのは「**技能実習**」で**40.7%**。次いで特定技能や技術・人文・国際業務を含む「**専門的・技術的分野の在留資格**」が**30.1%**となっている。

外国人雇用事業所数及び外国人労働者数推移



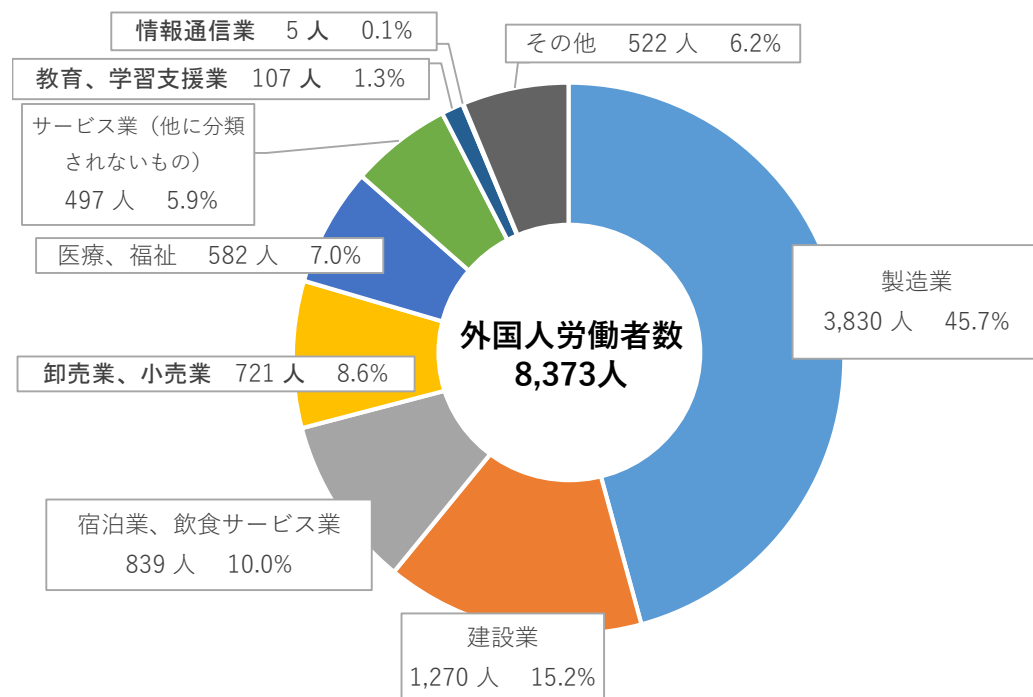
在留資格別外国人労働者数



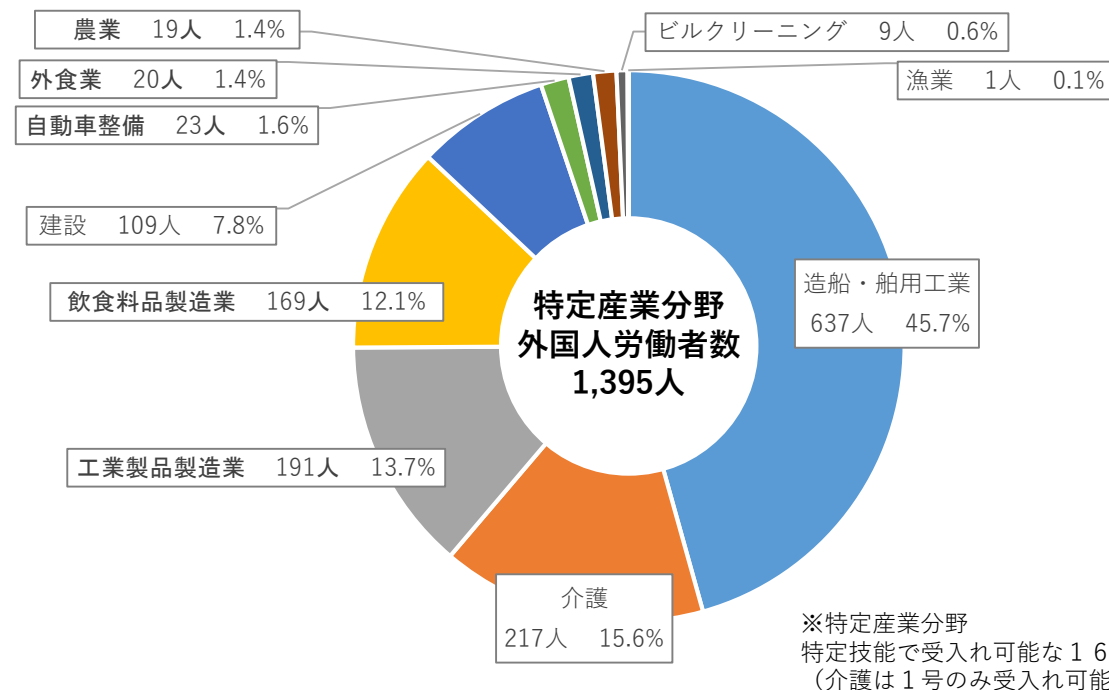
出典：広島労働局「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（令和6年10月末時点）
（福山公共職業安定所管内）

- 産業別にみると製造業の外国人労働者が最も多く45.7%。次に建設業15.2%と多くの外国人労働者が従事している。
- 特定産業分野別では、造船・船用工業分野の外国人労働者が45.7%と最も多く、次に介護15.6%、工業製品製造業13.7%、飲食料製造業12.1%となっており、製造・介護分野で特定技能の受け入れが多い。

産業別外国人労働者数（福山公共職業安定所管内）



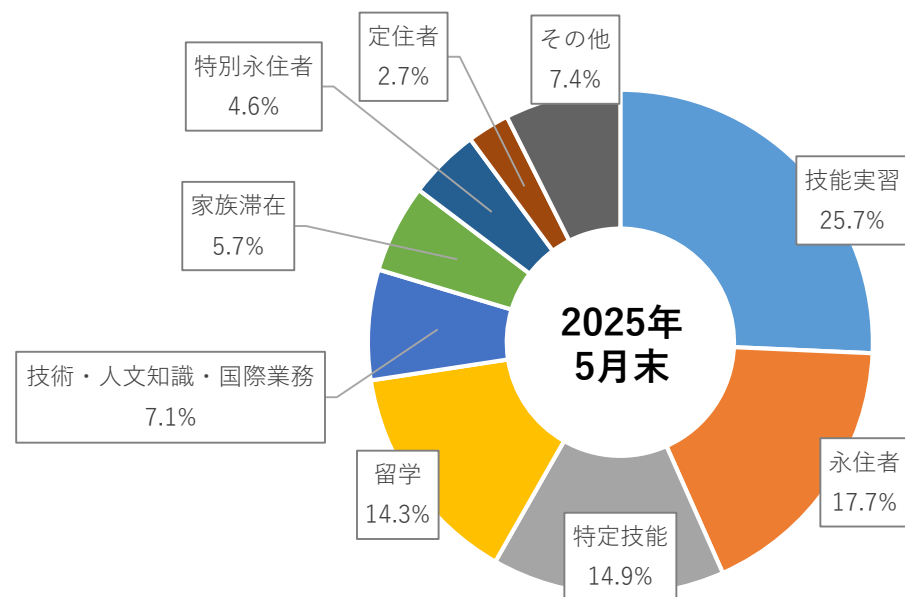
特定産業分野別外国人労働者数（在留資格「特定技能」に限る） （福山公共職業安定所管内）



出典：広島労働局「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（令和6年10月末時点）
（福山公共職業安定所管内）

- ・ **コロナ禍以降留学生数は増加傾向にあり、2025年5月末時点で留学生は外国人の人口の14.3%を占めている。**
- ・ **留学生の市内就職率は33.3%。就職時に市外転出をしている。**
- ・ 多くの技能実習生が市外転出をしているが、監理団体において研修を行った後あらかじめ決められた企業で就労するため、技能実習生の市外流出を止めるのは困難。

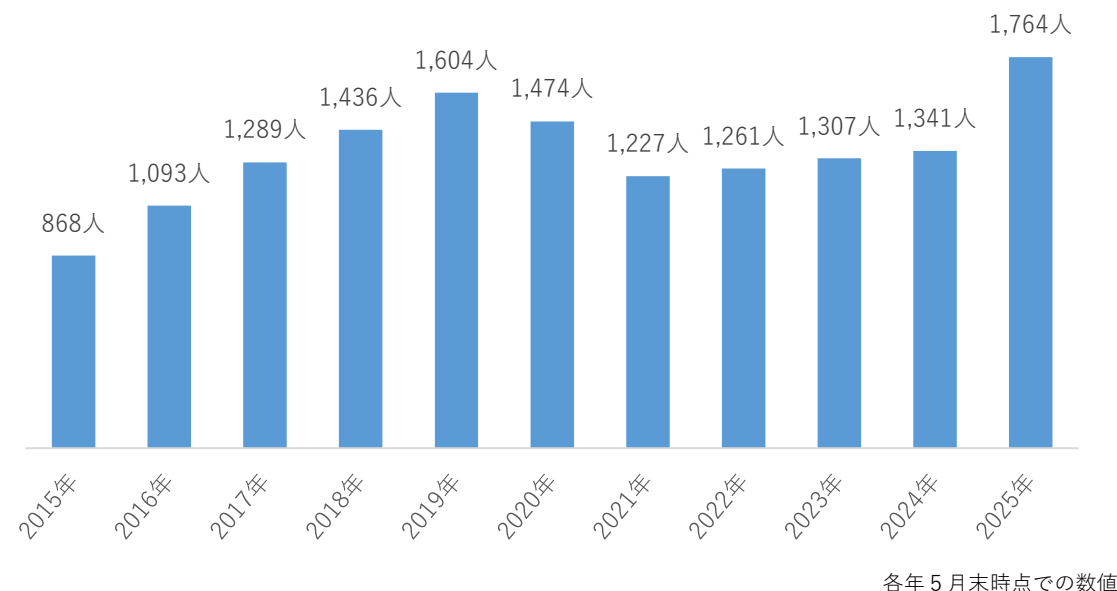
在留資格別外国人割合（2025年5月末時点）



留学生市内就職率（2022年度卒業・修了者の実績）

国内企業への就職者数 174人
うち市内企業への就職者 58人（33.3%）

留学生数推移



入国後40日以内の移動（2022年度入国）

技能実習1号口 入国者数 2670人
国内異動 1904人（71.3%）

現状・課題

日本語学習機会の充実

- ・日本語を学ぶ目的が多様化している
- ・日本語を勉強したい外国人住民が多くいる

相互理解の促進

- ・日本人とのコミュニケーションを求めている外国人住民が多くいる
- ・外国人住民が増えることについて、文化や言葉、生活習慣等の違いから不安を感じる地域住民がいる

住まいの確保と就労環境の整備

- ・外国人住民の住宅確保が困難な状況がある

外国人材の受入れ支援

- ・受入れに興味はあるが、方法が分からない企業や団体がある

定着促進とキャリア形成支援

- ・留学生の約半数が備後圏域外の企業や団体に就職している

今後の方向性

2027年度からの育成就労制度移行を見据えた外国人材に関する産学官による支援

日本語学習（能力向上）支援

- ・日本語学習への支援
- ・国・県の制度等の情報発信

就労支援

- ・就労環境の課題等を把握
- ・就労・生活のための就労制度、雇用ルールの啓発
- ・国・県の制度等の情報発信
- ・相談窓口の周知・連携

教育部会（福山市外国人児童生徒等指導体制の推進に係る協議会）に関わる現状と課題について

○教育委員会の取組の経過

- 2023年度 日本語指導を担当する学校指導員を配置
※学校の日本語指導の現状と課題を整理
- 2024年度 協議会を設置
※日本語初期指導教室の導入について検討
- 2025年度 日本語初期指導教室の開設（9月予定）

○協議会設置目的

本市における外国人児童生徒等（国籍にかかわらず多言語・多文化環境で生育された児童生徒を指す）に対する望ましい教育の在り方について、広く関係者の意見を聴取し、本市の実態に応じた組織的な受入体制を構築するため、福山市外国人児童生徒等指導体制の推進に係る協議会を設置する。

○委員構成（協議会）

- 学識経験者（福山市立大学教授、広島大学准教授）
- 行政関係者（多様性・スポーツ推進担当部長、保育施設担当部長、学校教育部長、管理部長）

○委員構成（プロジェクト会議）

- 学識経験者（福山市立大学教授、広島大学准教授）
- 学校関係者（日本語教室設置校：南小、樹徳小、松永小、西深津小、遺芳丘小）
- 行政関係者（多様性社会推進課長、保育指導課長、児童クラブ担当課長、学事課長、学びづくり課長）

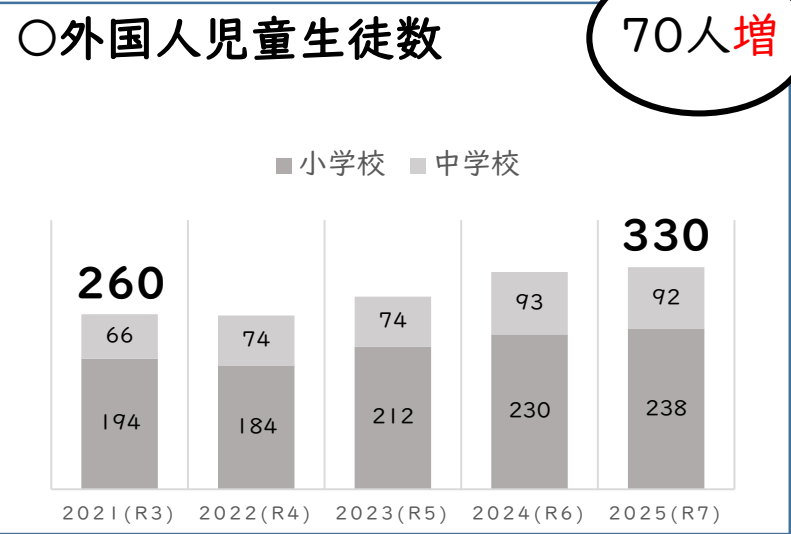
協議会・プロジェクト会議の経過（2024年度）

第1回協議会 （2024年5月31日）	福山市の日本語指導の現状と課題について意見交換 【課題】・日本語指導を必要とする児童生徒が増加している。（全国的な傾向） ・学校における日本語の指導内容が不十分、指導者の研修が不足。 【方針】・他市町の取組状況を参考に福山市の方針を検討すべき。
第1回プロジェクト会議 （2024年8月28日）	・多文化共生推進プランの内容について共有 ・福山市における地域、保育所、放課後児童クラブでの外国人児童生徒への対応状況を共有 ・日本語教室設置校（3校）における取組の共有
他市視察	7/30 東広島市 9/10～11 愛知県みよし市、豊田市、豊明市
第2回プロジェクト会議 （2024年10月4日）	・初期指導教室の内容について意見交換
第2回協議会 （2024年12月3日）	福山市の初期指導教室（案）について意見交換 【意見】・日本語習得レベルの到達目標設定・カリキュラム作成が必要 ・在籍校との連携が重要 ・転入学直後から学校へのつながりを重点に、まずはスモールステップで始めること。

○ 福山市立小・中学校における児童生徒への日本語教育の現状（2021～2025年度）

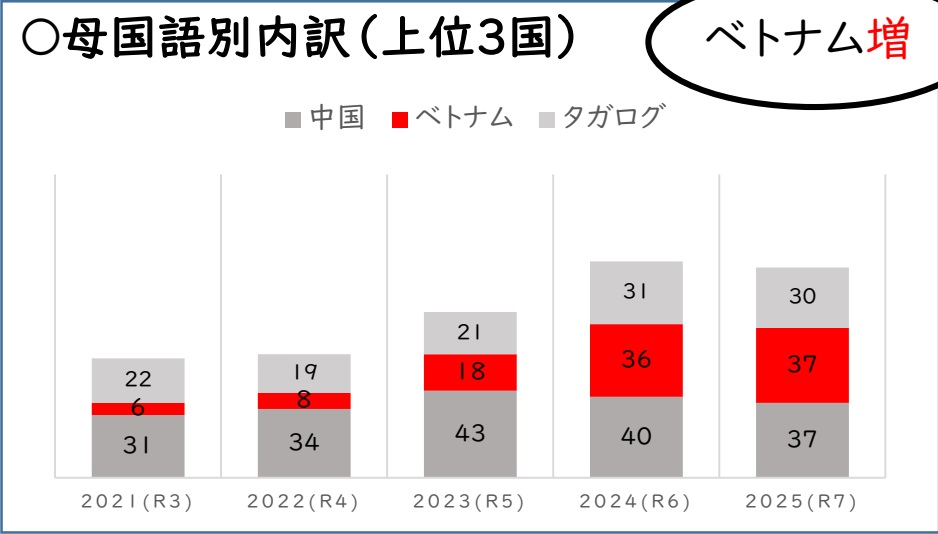
○外国人児童生徒数

70人増



○母国語別内訳（上位3国）

ベトナム増

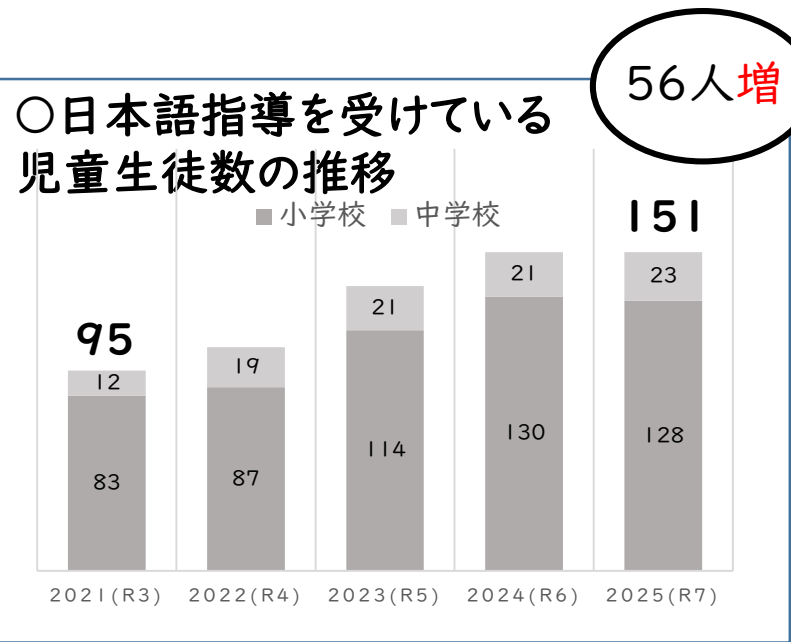


○課題

日本語能力が不足しているこどもに、言語としての日本語を習得させる専門性が不足している。

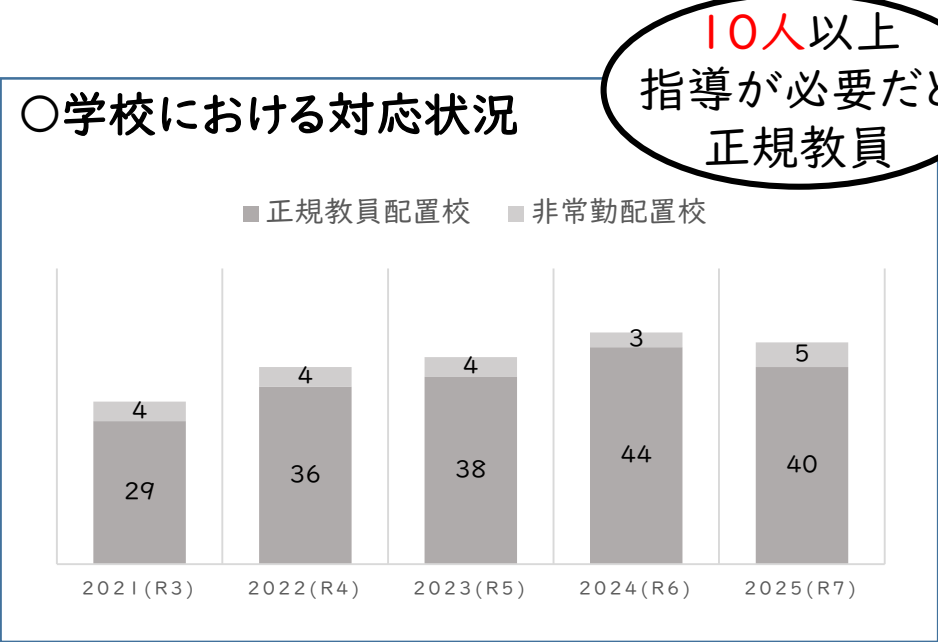
○日本語指導を受けている児童生徒数の推移

56人増



○学校における対応状況

10人以上指導が必要だと
正規教員



○方向性

転入学直後から、専門的な日本語初期指導を受ける体制を整える。

※ 30日程度の授業によって、学校で最低限必要となる言語能力の獲得と、日本の学校文化に馴染ませる。

現状・課題

就学前施設

- ・施設ではこどもに対して日本語で対応しているが、家庭では母国語を大切にしていることもある。
- ・保護者との懇談で通訳を依頼することがある。
- ・進学先の小学校と情報の連携を行っている。

公立小中学校

- ・日本語指導者に、言語としての日本語を習得させる専門性が不足している。
- ・非常勤講師の勤務時間数に制限があるため、個々に応じた学習ができていない。
- ・使用する教材が統一されていない。

放課後児童クラブ

- ・文化の違いに起因するのかわからないが、クラブとしての秩序維持の指導が難しいことがある。
- ・保護者とのコミュニケーションが難しいことがある。

今後の方向性

- 
- ・幼保小中連携の枠組みで課題を共有する
 - ・小学校入学段階での日本語能力に合わせ、初期指導教室を利用できるよう検討する。

- 
- ・初期指導教室の開設する（2025年度～）
 - ・日本語指導における共通カリキュラム作成
 - ・日本語指導者への研修の充実

- 
- ・日本語能力に起因する課題の整理
 - ・小学校との情報連携

※保護者とのコミュニケーションは、さまざまな翻訳アプリによって対応している。

○ 日本語初期指導教室について

場所：旧郷分幼稚園

目的

- ・ 福山市立小・中・義務教育学校に在籍する日本語指導の必要な外国人児童生徒が、日本の学校生活に適応し、授業が理解できるようになるため、入学・編入学時に日本語初期指導教室において語学指導等を行う。
- ・ 初期指導修了後も継続的に支援するため、児童生徒等の在籍校において、巡回指導や日本語指導担当者に対する研修等を行う。

1日のイメージ

在籍校へ登校	
1～4校時	在籍校で通常通り授業参加
給食	※ 給食を食べてから移動するか、弁当を持参し、日本語初期指導教室へ移動して食べるかは、保護者と相談して決定
移動	在籍校 → 初期指導教室
1コマ 13:30～	1コマ40分授業 ・ 日常会話（挨拶、自己紹介、教室での基本的なやり取り） ・ 学校生活に必要な語彙と表現 ・ ひらがな、カタカナの読み書き などを中心に指導
2コマ 14:15～	
3コマ 15:00～	
移動	初期指導教室 → 在籍校
下校	